

# 児童・生徒質問紙による調査の分析

## 【小学校】

「話し合い活動を通して、考えを深め、広げること」について肯定的回答の割合が高いことは、【学び合い】による授業において、日頃より他者との協働的な学習活動に取り組んでいる成果とみられます。また、「将来の夢や目標」について肯定的回答の割合が高いことから、引き続き児童の積極性や意欲的な姿勢を大切にした教育活動に取り組んでいきます。

一方で、スマートフォンやタブレット端末等の利用時間が長いことから、読書をする習慣が減少してきていることが伺えます。学校生活の読書タイムを活用することで、読書に対する意欲の向上を図ります。また、自分自身に対して自信がもてない傾向がみられることから、日々の授業や学校行事をとおして、自己有用感や自己肯定感を高めていけるよう努めていきます。

## 【中学校】

「授業におけるICT機器の活用」については県平均の割合より高く、活用方法についても、[調べ学習]・[意見交流]・[発表場面]とそれぞれの状況での活用において、県平均より高い傾向がみられました。さまざまな授業において、一人一台端末の活用が積極的に取り組まれている成果とみられます。また、読書に対する肯定的回答の割合が県平均より高いことから、日々の朝読書への取り組みから読書習慣の定着が図られ、生徒の意欲的な姿勢につながっているものとみられます。

一方で、「将来の夢や目標」・「困難への挑戦」に関する項目では、肯定的回答の割合が低い傾向にあるため、学校生活において生徒が積極的に取り組める機会を設定することで、個々の自信や意欲につなげていけるようにしていきます。また、「家庭学習の計画的な取り組み」の項目においても、肯定的回答の割合が低い傾向にあることから、引き続き家庭と連携した家庭学習の定着に努めていきます。